

【背景（国の動き）】

R2.10 菅義偉内閣総理大臣が、2050年カーボンニュートラルを宣言

- **2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略を策定**
～「経済と環境の好循環の創出」を目指す～

<取組の方向性>

- ・ 電力部門・非電力部門の脱炭素化
- ・ 森林吸収源対策・カーボンリサイクル

- **国・地方脱炭素実現会議「地域脱炭素ロードマップ【骨子案】」**

- ～脱炭素で、強靱な活力ある地域社会の実現へ～
- ・ 脱炭素先行地域の創出

国全体でカーボンニュートラルを実現していくためには、**各地域における取組が重要**

高知県も2050年カーボンニュートラルを宣言（R2.12）し、取組を推進！！

【高知県のカーボンニュートラルの実現に向けた取組の方向性】

ハチヨン

脱炭素なくらし・こうちから = 84の森 + 「都市の森」 + 「持続可能な産業振興」

「84の森」：森林面積率84%(全国一)の豊富な森林資源を活かした、

「持続可能な林業振興を通じた森林吸収源対策の推進」

「都市の森」：CLTの普及や県産材の利用促進等を通じた建物の木造化および環境負荷の少ない建築材への置き換えによる**「都市の脱炭素化」**の推進

「持続可能な産業振興」：**「グリーン化（脱炭素化を目指した取組）」による持続可能な産業振興の推進**

高知県は、令和3年度中に具体的な取組の道筋を示す

脱炭素社会推進

アクションプランを策定予定

2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現に向けては、現状や課題を踏まえた施策を着実に推進していくことが必要

提言① 建築物の木造化による都市の脱炭素化

【現状・課題】

- **都市の脱炭素化**には、鉄やコンクリートと比較して製造時の炭素放出量が少なく、素材自体の炭素固定量大きい木材を活用して、**中高層建築物の木造化・木質化**を進めることが必要
- 木造建築を進めるためには、**人々の目に見える形で事例を積み上げ**、その良さを示すとともに、メリットやコスト、耐久性などの情報を分かり易く提供することが必要
- 木造建築物は、**法定耐用年数が短いこと**などから**資産価値が低く評価される**ケースがあるが、**環境面と経済的な価値をあわせて評価**することが必要



香南市庁舎(7階建て)
※耐震壁にCLTを使用

【提言内容】

- 店舗・オフィス空間など**非住宅建築物の木造化・木質化、木製品の導入**に対する予算を十分に確保すること
- 木造建築物の**環境不動産としての評価方法を確立**するとともに、**炭素の固定量に応じた優遇措置**を設けること

提言③ 脱炭素先行地域の創出

【現状・課題】

- 国においては、「**地域脱炭素ロードマップ【骨子案】**」により、
 - ① 農山漁村・離島・都市部の街区など多様な脱炭素のモデルを示し、
 - ② 2030年までに脱炭素を実現する先行地域を100カ所以上創出し、各地に広げることとしており、**多様な地域の参画を促す**ことが必要

- 先行して2030年の脱炭素を目指す地域の取組みを加速化するためには、**地域の実情に応じた対策**が必要



こうち・さかわメガソーラー発電所

馬路村細井谷発電所

【提言内容】

- 地域の取組意欲を醸成し多様な地域の参画を促すとともに、脱炭素化を加速化するため、**ロードマップの具体的な施策を早期に示し、地域の実情に応じた多種多様なニーズに対応する支援メニュー**（自由度の高い交付金など）を創設すること

提言② グリーン化による産業振興（非電力部門の脱炭素化）

【現状・課題】

- 大企業などでは製造工程等でのグリーン化に対応する動きも出てきているものの、大多数を占める地方の中小企業においては、こうした動きに関心は持ちつつも具体的な動きにまで至っていない企業も多い
- 2050年カーボンニュートラルの実現に向けては、省エネルギー化や、グリーン化に資する製品や技術開発等に向けた取組を、全国あまねく促進していく必要がある



木質素材などを原料とするセルロース ナファイバー製造装置
土佐和紙と生分解性フィルムを使用したケース

【提言内容】

- 企業の高効率な生産設備等の導入を促進するため、**「ものづくり・商業・サービス生産性向上促進補助金」に特別枠**を創設
- グリーン化促進の後押しとなる**融資制度や税制制度**の創設・拡充
- 企業のグリーン化に資する公設試験研究機関での研究開発を促進するための**研究や試験機器導入への支援**を拡充

提言④ 再生可能エネルギーの導入促進（電力の再エネ化）

【現状・課題】

- 再生可能エネルギーの導入を促進していくためには、**基幹となる送電線（基幹系統）の増強が必要**
- 現在、国においては、再生可能エネルギーの主力電源化に向けた電力ネットワークのあり方を議論中
その中で**基幹系統の新たな増強ルールが議論されているところ**
- **高知県内の大部分のエリアは**、条件付で接続が可能な方式（ノンファーム型接続）
この方式は、送電線が一杯になった際に、**接続が抑制され（出力制御）、売電ができなくなる**
⇒ 発電事業者にとっては事業収益性の判断が困難であることから、**参入につながりにくい**

【提言内容】

- 基幹系統の増強ルールの見直しにあたっては、**地方の増強が先送りされることのない制度設計とすること**
- 基幹系統が増強されるまでの間、出力制御が必要となった場合には、**再生可能エネルギーの活用を優先させるようルールを早急に見直すこと**

